

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



編集発行人：濱塚有史 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019(623)1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



10月号 国際協力募金特集

「子どもたちと一緒に」

盛岡YMCA ディレクター 浅沼 慧

今年から、YMCAの中学生対象のサッカークラブ、ジュニアユースが本格的に始まり、多い時には1週間に5日の練習をこなしている中学生たちだが、仲間が揃えばいつも楽しそうに元気一杯、はしゃぎまわっている。アホな事を言ったり、それを聞いて笑っていたり、みんなで追いかけて合っていたりするのだが、いざ練習となると目の色が変わるのである。練習がなかなか上手いかない時には、本気でイライラしていたり、みんなで励まし合いながら辛い練習も乗り越えている。小学生時代のベストキッズと一緒にプレーをしている仲間だからこそできる温かさ、中学生に上がってさらに本気になってサッカーへ向き合っている子どもたちを見ていると、自分のことのように熱くなり、わくわくする自分がいることに気づかされる。

去年までは、小学生のベストキッズだけであったが、ジュニアユースという場で熱くなり、わくわくする機会が増えたことをすごく嬉しく思う。そして、やっぱり子どもにはみんなを夢中にさせる力があるのだと改めて実感する。

「そんなみんなと一緒にプレーしたかったなあ」なんて思う自分もいるけど、子どもたちと一緒に熱くなり、わくわくすることができる時間を大切にして、子どもたちと“一緒に”サッカーと向き合って、子どもたちと“一緒に”サッカーを楽しんでいきたいと思う。

さあ明日も子どもたちと“一緒に”熱くなって、ワクワクするぞ！！

YMCA国際協力募金

ひとつのやさしさからたくさんのありがとう

YMCAの国際協力募金は、すべての人びとが国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会を創り出すための国際協力・地域奉仕活動に用いられます。

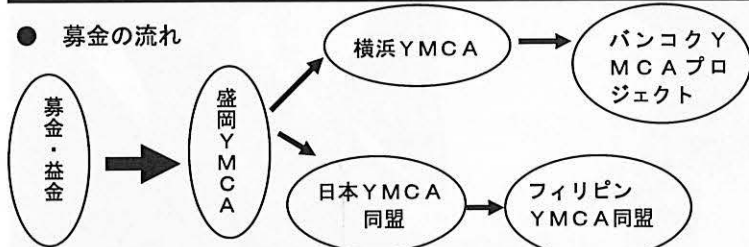
2008年度に全国のYMCAに寄せられた募金は、総額64,554,219円となりました。募金のうち38,296,987円は、全国のYMCAによる活動に、26,257,232円は、日本YMCA同盟を通しての活動に使われます。

● 盛岡YMCAの取り組み

街頭募金やチャリティコンサート、チャリティフットサル大会などの益金を日本YMCA同盟などを通して送金してきました。今年度は、引き続きタイ児童保護活動支援と、新たにフィリピン・台風16号被災地支援のため募金活動を行います。

年	送金額	用途
2001年	41,000	9.11同時多発テロ被災者支援／アフガン難民救済
2002年	155,644	アフガン難民救済
2003年	108,543	アフガン難民救済
2004年	160,608	アフガン難民救済
2005年	185,911	アフガン難民救済
2006年	204,474	アフガン難民救済
2007年	348,843	タイ児童保護活動
2008年	170,881	タイ児童保護活動

● 募金の流れ



かけがえのない
いのちと平和

YMCA国際協力募金 キックオフ
募集期間 11月1日～3月31日

● タイの子ども達への教育支援

タイ北部にある人身売買から子どもたちを守るシェルター、YMCAパヤオセンター並びにバンコク近郊にあるエイズ孤児ケアセンター、YMCAハッピーホームに通う子供たちを支援します。

● フィリピン・台風16号被災地支援

9月26日、台風16号は、マニラとその近隣地区は豪雨をもたらし、多くの人が亡くなり、数千世帯が避難をしました。マニラ東部のラグナ湖周辺では、いまだ浸水しており、220万人が向こう3カ月間、浸水した状態で暮らすことが予想されます。フィリピンYMCA同盟を通して被災地の支援を行います。



YMCAでは、1994年から横浜YMCAとタイ・バンコクYMCAとの協働により、タイの子供たちの教育支援を行っています。タイ北部パヤオ県ドゥカムタイ郡に児童保護シェルターとして「YMCA/パヤオセンター」ナコンパトム県には、エイズ孤児ケアセンターとして「YMCA/ハッピーホーム」が建設、運営されています。盛岡YMCAでは、盛岡YMCAボランティアリーダー大塚英彦君(岩手県立大学総合政策学部4年生)が横浜YMCAから現地ボランティアスタッフとして派遣されました。



最初はツチノコといふニックネームだったが、いつの間にか略してツッチーと呼ばれるようになった。ラーメンで有名な福島県喜多方市の出身。小学生から始めた、柔道はかなりの腕前だったが、本人いわく、「柔軟ちゃんには」発で投げられるでしょう。「いずれにしても歴代リーダーの中では、1,2を争う運動神経の持ち主だ。その一方でピアノも弾けて、クリスマス会で伴奏したりもする。本町、土淵、篠木サッカー、水泳教室、アドベンチャークラブの活動に参加してくれている。雨男で、篠木サッカークラブの子供たちは、「今日、雨が降りそうだから、ツッチーが来るよ。」など、出没予想をhangoverした。

★ツッチーリーダー(小原光史君)
(岩手大学教育学部大学院2年生)



誰からも愛されること間違いなし。

★鶴リーダー(菅原唯さん)

(岩手県立大学看護学部4年生)

山形県鶴岡市出身なので鶴リーダー。本町サッカー、主にYMCAサッカースクールの代表チーム「ベスト・キッズ」のマネージャーをしてきている。おっとりした話し方で、癒し系NO.1。看護学部は、忙しい。実習に次ぐ実習の中で、4年生になっても活動に参加し続けている。本人は口には出さないが想像を絶するようなスケジュールをやりくりしながら活動に参加してくれている。デザインも得意で、リーダーが着ているエリシ色のシャツも鶴リーダーのデザインです。来年は、卒業です。就職しても、その人柄で誰からも愛されること間違いなし。

◆◆リーダー紹介◆◆

街頭募金のご案内

- と き/11月23日(祝)
 - ところ/大通り、開運橋(予定)
- YMCAの募金活動は、多くの皆さんにYMCAの国際協力活動を理解していただく機会ともなっています。世界122の国と地域に広がるネットワークを利用して活動を展開しています。
- ☆街頭募金に協力していただくボランティアも募集しています



★ タイから帰国しました ★

岩手県立大学の大家英彦(ティラノ)です。2年間の活動を終え、9月に帰国しました。私がいたパヤオセンターでは、教育を通して人身売買の防止の活動を行っています。パヤオセンターで子どもたちと暮らしていると、子どもたちの夢を聞くことがあります。それは近い未来の夢、「大学や専門学校に進学したい。」中には、「中学校、高校に進学したい。」という子もいます。将来の仕事の夢は、学校の先生、お医者さん、ソーシャルワーカー、警察など様々で、そして自分の生まれた村で働きたいという子が多いです。

こうした職業に就くには、学歴やしっかりとした知識が必要になります。しかし、現在のタイの社会環境は、望めば教育できるという環境ではありません。教育のためには、多くの費用が必要になり、その費用が貧困層の家庭では支えられないのが現状です。特に北部タイの地域ではこうした状況からほとんどの家庭が農

業や日雇い労働の仕事をし、さらにその農業でも十分な収入を得られていません。

人身売買の被害者は、このような貧困層の家庭の子が多いです。そこでパヤオセンターでは、このような地域で、教育(奨学金など)や知識の普及を通して人身売買や商業的性的搾取の防止の活動を行っています。今後は盛岡でタイでの活動のことなどを様々な場で伝え、少しでもタイのこと、子どもたちのことなどを身近に感じてもらえる活動を行ってまいります。



第6回 インター・ナショナル・ミュージックフェスティバルのご案内

- と き/11月15日(日)14:00~16:00
 - ところ/プラザ おでって
 - 入場料/大人700円 こども300円
- 盛岡近郊に在住する、外国人の方々などが参加し、それぞれのお国自慢の歌や踊りを披露します。益金は、タイの子供たちの教育支援に使われます。



☆ 当日の会場ボランティア、チケット販売に協力して下さる方を募集しています。YMCAまでご連絡下さい。



リーダー お勧めの本③ チャメゴンリーダー

ちいさな王さまシリーズ

「うそつき王さまいぬをかう」

寺村輝夫 作/ 和歌山静子 絵

こんにちは。チャメゴンです。今回は私が本を紹介します！

子どものころの私は本を読むよりはテレビを見たい、外で遊びたいといった感じで、本はあまり読まなかった記憶があります。そんな私が唯一夢中になって読んだ本が、ちいさな王さまシリーズです。なかでも一番気に入っていた「うそつき王さまいぬをかう」という本を紹介します。

ちいさな王さまは子どもだけど王さまです。学校にも通うし、大臣に頼まれるとおつかいにも行きます。ある日、ペットショップで見た犬を王さまはたまらなく飼いたくなります。ところが大臣が許してくれないので、王さまはいい子にして大臣に犬を飼うことを許してもら

うとがんばります。そんなある朝、王さまが目覚ますとあの犬が目前にいるのです。王さまは大喜び。ところが、犬は王さまをどんどん不思議な世界に巻き込んでいきます。不思議な世界での出来事は王さまにペットを飼うということ、さらには相手がどんな気持ちでいるのか考えることの大切さを教えてくれます。

ちいさな王さまシリーズでは毎回王さまがある出来事をきっかけに、不思議な世界にどんどん巻き込まれていきます。その不思議な感じや、ちょっとわがままで意地っ張りな王さまが毎回少しだけ大切なことを学んでいくところが好きで、全シリーズ読みつくしてしまいました。きっと、ちいさな王さまに自分と似た部分を感じていたのではないのでしょうか(笑)

みんなも好きな本から大切なメッセージを見つけ出してみてね。



原田麻由・チャメゴンリーダー
(岩手県立大学看護学部4年生)

家が農業の「ホタテリーダー」がおばあちゃんに教わった通りにイナゴを調理。おっかなびっくりのピーチリーダー。こどもたちは早く食べたくてワクワクしています。このあと、醤油とみりんで炒めはじめると分校中に香ばしい香りがたどいまし

翌日は、晴天。校庭で野球をしたり、イナゴを捕まえて佃煮にして食べたのって過りました。



★アドベンチャークラブ9月活動

月例の野外活動、アドベンチャークラブ9月活動が、秋田県田沢湖畔にある、「思い出の湯分校」で行われました。湯分校は、昭和四十九年に廃校になったのを地元の有志の方々が二年がかりで修復した施設です。子どもたちが思う存分大騒ぎできる施設が少なくなってきたという話をしたところ、盛岡YMCAのサポートクラブ、もりおかワイズメンズクラブのメンバー、千葉代子さんが湯分校出身ということで、関係者の方々に連絡をとって下さり今回利用できることになりました。

二〇名の子もたちと、七名のリーダーたちは、木造校舎のぬくもりに薪ストーブ、まるでトトロが出てきそうな雰囲気の中、ゆったりとした時間を過ごすことができました。夜は、肝試し、外で焚き火をしながら子供たちがもどってくるのを待っていると、満点の星空と、満月。焚き火を消しても月明かりで自分の影が見えるほどでした。

◆◆プログラム報告◆◆

